



鹿角手をつなぐ親の会
第64回総会議案書
会 報
令和2年5月

「地域が育み、街の中で生きる」 鹿角手をつなぐ親の会・事務局・鹿角市花輪字柳田41-1
TEL 0186 (22) 1787 FAX (22) 4030

〈第1号議案〉

平成31年度（令和元年度）事業報告

平成31年（令和元年）も台風や豪雨等による多くの犠牲者と家屋や農地、林野などが壊滅的な被害を受けた年でしたが、5月から新しい元号となり、新天皇のご即位に関わる儀式が続き多くの国民から慶祝されました。

令和初の新年を迎える頃から、新型コロナウイルスの感染が世界を震撼させながら拡大を続け、未だに収束宣言も無く世界中の人々を不安にさせています。

このため、東京オリンピック、パラリンピックは一年間延期されました。

私たちにとって残念で許せないことは、安倍首相が「桜を見る会」の招待者名簿を巡り「廃棄したのは障害者雇用の職員だった」と国会で答弁したことです。廃棄の作業をしたのは障害者だったとしても廃棄すると判断し、それを障害者雇用職員に指示したのは正職員であることは明白である。首相は「障害者が関わったのだから仕方ないと国民に思わせたかったのではないか」との批判もあった。昨年の障害者の法定雇用率水増し問題とともに、首相をはじめとする国（行政）の障害者に対するこうした意識、姿勢には愕然とし、障害を持つ方々の人格を否定し、差別をする。さらには障害者の人間としての尊厳を踏みこむ姿勢に強い憤りをおぼえます。

さらに、1月からは「津久井やまゆり園」事件の公判が始まり、3月16日に「被告には責任能力がある」と認定されて死刑が確定しました。

これから私たちにできることは、彼のような考えが生まれる社会を少しでもよい方向に変えていくことだと思います。

さて、当会の平成31年度（令和元年度）事業活動をふりかえり、

① 親の高齢化と子の重度・高齢化に伴う諸活動

親の高齢化と子の重度・高齢化に伴う諸課題は、ますます深刻さを増してきていることから、全国大会や東北ブロック大会でも大きく取り上げて話し合いを続けています。

本人たちの「自分が暮らしたい街で、親亡きあとも安心して生活したい」という想いを実現するために、地域から「知的障害」を知ってもらい、応援してもらうようなシステムづくりを進めてきました。

この一環として、花輪、十和田地区の民生委員たちに彼らが働く工場を視察してもらい、工場の責任者から彼らの働きぶりを話していただき、知的障害の特性、個性などを知ってもらう機会としました。

この活動は、民生委員の方々から高く評価されているので、これからも続けて取り組みます。

② 「共生社会」構築のための運動

国の障害者制度改革の究極は「共生社会」の実現にありますが「やまゆり園」事件の被告の優生思想に共鳴、共感する人たちも少なからずいるのも現実です。私たちの社会を構成する一般市民の心に潜む障害者への差別・偏見は、国連障害者の10年などを経て少しずつ改められてきていますが、これからも一人ひとりのかけがえのない命が尊重され、高齢者や障害者だけではなく外国人など様々な属性の方々と共に生きる社会になれるのか。日本人の国民性が問われていると思います。

私たちは今年も「障害者差別解消や虐待防止」の取組みをどう進めるか。また、障害を理解する教育の拡充を求める取組み等について全国連合会、県育成会と一緒に話し合いを深める機会に参加したほか、秋田県の「差別解消条例」、秋田市の「共に生きるまちづくり条例」についても学習しました。

③ 花輪ふくし会と愛生会との連携を深める

会員のなかには、子供が花輪ふくし会で運営する施設やGHなどを利用している方も多数おられますが、今年、利用者と会員（保護者）から支援等に関わる改善要望がなかったことから、花輪ふくし会では「支援法の基本理念」に基づいて誠実に利用者支援をされていることがうかがわれます。

「8050問題（80歳代の親がひきこもりなどで家に居る50歳代の子供の面倒を見なければならない）」が大きな社会問題となってきました。これは私たちにも起き得る深刻な課題です。

しかし、高齢の親が「同居する子供と一緒に施設を利用したい」と望んでも受け皿が無いのが現状です。親の会でも、新年会や研修会に参加した、子供と同居している会員たちから聞きましたが「まだがんばれるが、面倒を見られなくなったとき、環境が変わっても暮らしていけるか不安だ。面倒を見てもらいながら一緒に暮らせたらいい。」との声にうなずく会員もいました。

これからは、愛生会や花輪ふくし会との話し合いを進め、こうした声を反映させていきます。

④ あんず部会との共同と組織強化

あんず部会の皆さんには今年も総会、元気フェスタ、新年会など当会の大きな事業で積極的にそして斬新なアイデアを持ち寄って、参加者が感動する事業を展開してくれました。

また、県大会（横手大会）にも参加したほか、今年市社協からお願いされた「赤い羽根共同募金」の街頭募金呼びかけにも初めて協力して主催者から感謝されました。

ただ、反省することとして視察研修会を実施できなかったことが挙げられます。

支援学校の保護者（PTA）と関わって組織を強化する活動については、兎澤会長が県育成会理事会で10年以上も前に「全ての市町村育成会が会員の高齢化と若い会員が入ってこないことを最大の課題としているので、県内の養護学校（当時）の保護者会と連携し、育成会の存在をアピールして後に続く会員の加入を促進することを決定したが、この活動を続けてきたのは鹿角だけである。しかし、鹿角でも活動の効果は芳しくなかったため、方法、取り組み方を根本から見直したらどうか」と提案しました。

事務局から「県教育庁と連携して支援学校との協議会、懇談会等に参加し、卒業後の進路問題や就学児童生徒の保護者が抱える問題などについて相談を受ける事業を実施したい」と提案され、新年度からの事業として承認されました。

⑤ 賛助会員獲得活動

賛助会員の獲得については、企業では愛生会、個人では4名の方が加入されましたが、一方で亡くなられた方、ご高齢のため退会された方もおられたので結果的に1名の増となりました。

「あなたも大切な人ですよ」

比内支援学校
かづの校

社会福祉法人 愛生会
就労継続支援B型事業所
Bio Bent's Laundry Service

たかびの活動センター
出だちの家の家

障害者支援施設
更望園

障害者支援施設
鹿角苑
(東京都委託施設)

指定障害者支援施設
東山学園

相談支援事業
鹿角市受託施設
障害者センター

〈第2号議案〉

平成31年度 収支決算書

(収入の部)

項目	区分	予算額	決算額	増減	摘要
会費		290,000	285,150	△4,850	
助成金		50,000	77,000	27,000	共同募金会・3万円 JIC・4.7万円
寄付金		15,000	22,515	7,515	山崎 兎澤
特別会費		120,000	388,500	268,500	総会 県大会 新年会
雑収入		40,000	68,085	28,085	ブルーベリー 56,320円 喫茶店 6,500円
繰越金		188,312	188,312	0	
借入金		30,000	0	△30,000	借入せず
合計		733,312	1,029,562	296,250	

- ◎ 増減欄は、決算額－予算額 △は 予算額より減収したことを示す
- ◎ 特別会費の増額は、県大会参加費 16名分による
- ◎ 助成金は、県育成会から無し JIC から研修会助成
- ◎ ブルーベリー販売は、小坂町の「みんなのお店・わいわい」に当会の出店コーナーを設置

(支出の部)

項目	区分	予算額	決算額	増減	摘要
通信費		45,000	47,878	△2,878	議案書 情報紙 封書等郵送費
印刷費		60,000	62,536	△2,536	議案書 あじさいⅡ
会議費		40,000	6,719	33,281	幹事会等の飲食補助
交通費		25,000	28,500	△3,500	県育成会総会 研修会 東北B大会 旅費
事務局手当		36,000	36,000	0	会計・事務手当
賃借料		24,000	24,000	0	出発の家
負担金		65,000	59,757	5,243	県育成会負担金 払込・振込手数料
消耗品費		25,000	25,721	△721	コピー用紙 プリンターインク代
行事参加費		250,000	599,850	△349,850	総会 県大会 新年会 参加費
積立金		30,000	0	30,000	
雑費		35,000	10,697	24,303	県大会広告料 会費返戻金 喫茶店用資材費
予備費		68,312	10,787	57,525	エプロン代 寸志品代(サカノ繊維)
返戻金		30,000	0	30,000	
合計		733,312	912,445	△179,133	

- ◎ 増減欄は、予算額－決算額 △は 予算額を超過したことを示す
- ◎ 収入総額 1,029,562円 - 支出総額 912,445円 = 残額 117,117円 (翌年度へ繰越)

(積立金)

30年度末積立額	31年度支払額	31年度末積立額	摘要
127,011	0	127,011	利息11円

(県育成会受託本人活動支援事業＝ブルーベリー栽培支援ほか)

受託額	支払金額	差引残高	摘要
60,000円	60,460円	1,700円	62,160 - 60,460 = 1,700円

- ◎ 60,000円のうち30,000円は出発の家保護者会へ。同会では31,000円の支払いがあった。
- ◎ 受託額のほかに中村さんへ幼木を譲渡し、2,160円を雑収入とした。(収入総額 = 62,160円)
- ◎ 昨年度は2,018円の赤字だったので、2,018円 - 1,700円 = 318円 (318円は次年度で補填する)
- ◎ 上記の内容で県育成会へ報告し、承認を得ている。

(本人活動支援事業基金)

項目	収入金額	支払金額	差引残高	摘要
繰越金	41,897	0	41,897	
雑収入	0	0	41,897	
元気フェスタ	30,380	19,420	52,857	検査料等 3,050円 材料費等 16,370円
寄付金	0	0	0	
新年会	0	25,854	27,003	ビンゴゲーム、輪投げ対抗戦景品代
合計	72,277	45,274	27,003	次年度へ繰越

会計監査報告書

令和2年3月30日 交流センターにおいて現金出納簿、預金通帳、振替受払通知票、領収証等の関係帳簿及び書類並びに保管現金について監査を実施したところ、その内容は適正に処理されていたことを報告します。

令和2年4月1日

鹿角手をつなぐ親の会 監事 **竹澤圭子** ㊞
 鹿角手をつなぐ親の会 監事 **湯瀬涼子** ㊞

令和2年度会費納入のお願い

会費 普通会員(保護者)の方は
2,000円以上
賛助会員の方は
1,000円以上

納入方法 同封の「払込取扱票」で
お近くの郵便局から
払い込んでください。



<第3号議案>

令和2年度 事業計画 (案)

地域社会における共生の実現を目的として施行されている障害者総合支援法の基本理念(第1条の2)を実現するために全国連合会及び県育成会並びに関係機関・団体と連携し、協同行動をすすめて当会の目的の達成に努めます。

このため、総合支援法の運用において法の基本理念に基づき「本人にとってより良い制度」として実行されているかどうか、本人の声を聞き、改善要望があればその声を反映させる協同行動や第60回県大会の「大会宣言」の実現と「私たちの大会宣言」を尊重した本人活動支援にも取り組みます。

具体的には

- ① 障害者総合支援法施行後の動向や彼らが自立して地域で暮らすための権利擁護に関わる法・制度(障害者権利条約、障害者虐待防止法、同差別解消法、成年後見制度など)に関して理解するための取組みと改善課題への取組み。
- ② 「私たちの大会宣言」を尊重し、本人活動を支援する取組み。
- ③ 花輪ふくし会、愛生会、支援学校、市町社会福祉協議会など関係機関・団体との連携を深め、情報交換と協同行動をするための取組み。
- ④ 親の高齢化と子の重度・高齢化に伴う諸課題の解決に向けた取組み
- ⑤ 「地域社会における共生」の実現に向けた取組み
- ⑥ あんず部会との共同と組織強化の取組み

<令和2年度の主な行事・事業予定表>

行事等の名称	実施日	行事等の名称	実施日
第64回通常総会	中止・文書審議	県育成会総会(秋田市)	6月上旬
第62回県大会(大潟村)	8月30日(日)	鹿角市元気フェスタ	9月13日(日)
東北ブロック大会(青森市)	9月12日(土)	県北地区協議会・研修会	10月下旬
視察研修会	視察先・月日ともに未定	令和3年新年会	1月第2日曜か第3土曜

をつなぐ親の会 新年会



令和二年新年会



〈第4号議案〉

令和2年度 収支予算(案)

(収入の部)

項目	区分	①予算額	②前年度予算額	③前年度決算額	増減 (①-②)	摘要
会費		285,000	290,000	285,150	△5,000	普通会員62名 賛助会員76名
助成金		30,000	50,000	77,000	△20,000	共同募金会
寄付金		20,000	15,000	22,515	5,000	
特別会費		180,000	120,000	388,500	60,000	県大会 総会 新年会
雑収入		50,000	40,000	68,085	10,000	ブルーベリー、喫茶店収入
繰越金		117,117	188,312	188,312	△71,195	
借入金		0	30,000	0	△30,000	
合計		682,117	733,312	1,029,562	△51,195	

◎ 会費免除者が普通会員に7名、賛助会員に1名おり、摘要欄の会員数には含まれていない。

(支出の部)

項目	区分	①予算額	②前年度予算額	③前年度決算額	増減 (①-②)	摘要
通信費		57,000	45,000	47,878	12,000	郵送費 切手 ハガキ
印刷費		80,000	60,000	62,536	20,000	議案書 あじさいⅡ 封筒
会議費		10,000	40,000	6,719	△30,000	会議飲み物
旅費・交通費		25,000	25,000	28,500	0	県育成会総会 研修会(1泊)
事務局手当		36,000	36,000	36,000	0	会計及び事務局手当
賃借料		24,000	24,000	24,000	0	出発の家
負担金		65,000	65,000	59,757	0	県育成会 会費等払込手数料
郵送通知料金		3,850	0	0	3,850	110円×35(前年度実績33)
消耗品費		30,000	25,000	25,721	5,000	コピー用紙 プリンターインク他
行事参加費		260,000	250,000	599,850	10,000	県大会 総会 研修会 新年会
積立金		20,000	30,000	0	△10,000	
雑費		20,000	35,000	10,697	△15,000	県大会協賛広告料
予備費		51,267	68,312	10,787	△17,045	
返済金		0	30,000	0	△30,000	
合計		682,117	733,312	912,445	△51,195	

☆ 「郵送通知料金」項目の創設について

昨年10月(株)ゆうちょ銀行から「振替受払通知票等の取り扱い変更について」連絡があり、郵送通知料金を2020年4月1日から1通につき110円(税込)いただくことになるが、社会福祉事業を営む団体が「無料届書」を提出すれば引き続き無料になるとのこと。すぐに届書を提出したが、該当しないとされた。県育成会と相談し、秋田県知事による県育成会の「公益社団法人認定書」(写)を添付して再提出したが12月25日付で、これも不該当とされたのでやむを得ず新項目を設けました。

(積立金)

31年度末積立額	2年度積立額	2年度末積立額	摘要
127,000	20,000	147,000	郵貯定額貯金 利率0.01%

(本人活動支援事業基金)

項目	収入金額	支払金額	差引残高	摘要
繰越金	27,003	0	27,003	前年度比 14,894円減
雑収入	1,000	0	28,003	寄付金
元気フェスタ	35,000	20,000	43,003	収入：喫茶 30,000 会員出品支援 10,000
新年会	0	30,000	13,003	ビンゴゲーム等経費(景品)
合計	63,003	50,000	13,003	

* 基金財源の確保策を協議する必要がある



令和二年 新年会



